

子ども大牟田検定

ガイドブック

大牟田市教育委員会



©2016 omuta city jabow

子ども大牟田検定ガイドブックについて

大牟田の子どもたちに、郷土である大牟田のよさを知ってもらうために、平成23年度から『子ども大牟田検定』を行っています。この検定は、大牟田の宝ものをどれだけ知っているか、たずねるものです。この検定で出される、大牟田の宝ものを調べるための資料として、このガイドブックを作成しました。

私たちが生まれ育った大牟田には、じまんできる多くの宝ものがあります。このガイドブックにのせている宝ものとは、大牟田のすばらしい自然やすぐれた文化・伝統などのことです。大牟田にあるたくさんの宝ものの中から、以下の八つの項目をもとに選ばれたものが、このガイドブックにのせられています。

- ① 石炭関連施設（石炭に関係する世界文化遺産や近代化遺産など）
- ② 施設（建物や公園など）
- ③ 遺跡（文化財や史跡など）
- ④ 自然（植物や地質など）
- ⑤ 生き物（動物）
- ⑥ 伝統（祭りや工芸など）
- ⑦ 人物（大牟田の発展に貢献した人など）
- ⑧ その他



大牟田には、このガイドブックにのせているもの以外にも、たくさんの宝ものがあります。ここで取り上げることができなかった宝ものは、図書館の資料やインターネットなどで調べてみてください。

このガイドブックは、次のことに気をつけて作成しています。

- 宝ものについてよく分かるように、写真と文を使って説明しています。
- 「子ども大牟田検定」で出される問題の内容を、全てのせるようにしています。
- 学校の総合的な学習の時間や地域学習などで活用できるようにしています。

大牟田の宝もの 掲載一覧

① 石炭関連施設	1	宮原坑（みやのはらこう）
	2	三池炭鉱専用鉄道敷跡（みいけたんこう せんようてつどうじき あと）
	3	三池港（みいけこう）
	4	旧長崎税関三池税関支署（きゅう ながさきぜいかん みいけぜいかん ししょ）
	5	宮浦石炭記念公園（みやうら せきたん きねん こうえん）
	6	MPLC石炭館（えむびいえるしい せきたんかん）
	7	人工島（じんこうとう）
	8	旧三川電鉄変電所（きゅう みかわでんてつ へんでんしょ）
② 施設	9	大牟田市役所（おおむた しやくしょ）
	10	カルタックスおおむた（かるたっくす おおむた）
	11	339おおむたアリーナ（339 おおむた ありいな）
	12	八ちゃん堂大牟田市動物園（はっちゃんどう おおむたし どうぶつえん）
	13	ともだちや絵本美術館（ともだちや えほん びじゅつかん）
	14	記念グラウンド（きねん ぐらうんど）
	15	大牟田市エコサルクセンター（おおむたし えこさんく せんたあ）
	16	延命公園（えんめい こうえん）
	17	諏訪公園（すわ こうえん）
	18	リフレスおおむた（りふれす おおむた）
	19	三井港倶楽部（みつい みなとくらぶ）
	20	三池藩陣屋跡・三池街道（みいけはん じんや あと・みいけ かいどう）
	21	古賀家住宅主屋（こがけ じゅうたく おもや）
③ 遺跡	22	早鐘眼鏡橋（はやがね めがねばし）
	23	萩ノ尾古墳（はぎのお こふん）
	24	潜塚古墳（くぐりづか こふん）
④ 自然	25	有明海（ありあけかい）
	26	三池山（みいけざん）
	27	甘木山（あまぎやま）
	28	大牟田を流れる主な川（おおむたを ながれる おもな かわ）
	29	普光寺の臥龍梅（ふこうじ の がりゅうばい）
	30	定林寺のあじさい（じょうりんじ の あじさい）
	31	土穴のエノキ（つちあな の えのき）
	32	焼石山公園の米ノ山断層（やさいしやま こうえん の こめのやま だんそう）
	33	櫟野石（いちのいし）
	34	干拓（かんたく）
	35	石炭（せきたん）
	36	メタセコイア（めたせこいあ）
	37	化石（かせき）
⑤ 生き物	38	ムツゴロウ（むつごろう）
	39	カスミサンショウウオ（かすみさんしょううお）
	40	ベニアジサシ（ベにあじさし）
⑥ 伝統	41	銭太鼓踊りとひゅうたん廻し（ぜんでこおどり と ひゅうたんまわし）
	42	水（臼）かぶり（みず（うす）かぶり）
	43	渦いね踊り（がたいね おどり）
	44	うそ替えまつり（うそかえ まつり）
	45	おおむた「大蛇山」まつり（おおむた「だいじゃやま」まつり）
	46	三池初市（みいけ はついち）
	47	手づくり包丁（てづくり ほうちょう）
	48	竹細工（ミニ大蛇山など）（たけざいく（みにだいじゃやま など））
⑦ 人物	49	團 琢磨（だん たくま）
	50	立花 種次（たちばな たねつぐ）
⑧ その他	51	市章（市のマーク）（ししょう（し の まあく））
	52	大牟田の美味しいもの（おおむた の おいしいもの）
	53	大牟田の地名の由来（おおむた の ちめい の ゆらい）
	54	大牟田に伝わるお話（おおむた に つたわる おはなし）

場所 大牟田市宮原町 1-86-3

石炭をほるために 100年以上前につくられた建物が、今も残されているよ



駿馬小学校の校区にあります。石炭をほるためなどに作られた建物です。

地下にある石炭をほるためには、地下に下りたり、地上に上がったしなければなりません。そこで、やぐら(エレベーターのようなもの)を建てて、巻揚機室で、エレベーターを上げたり下げたりする操作をしていました。今も、そのやぐらと巻揚機室が残されています。

宮原坑では、多いときには、一日約1300トン以上の石炭をほっていました。これは、約450頭のゾウと同じ重さです。また、地下の坑道(石炭をほるトンネルのようなもの)では、たくさんの地下水がわいたため、坑道が水没しないように、地下水を吸い上げる必要がありました。そのため、デビーポンプという、世界一の大きさのポンプが取り付けられていました。

2015年に、世界文化遺産に登録されました。



もっとくわしく！

宮原坑は、1898年から石炭の採掘を始めた、明治後期における三池炭鉱の主力坑の一つである。現在は1901年に完成した第二堅坑の施設が残されており、1998年に国重要文化財に、土地は2000年に国の史跡に指定された。

宮原坑はかつて、第一堅坑と第二堅坑の二つの坑口を備えていたが、第一堅坑のほうは、全くその痕跡がわからないように埋め戻されている。第二堅坑の方は、高さ22メートルの鋼鉄製堅坑櫓と、レンガで造られた小ぶりの巻揚機室が、丘の上に立ち続けているが、深さ約160メートルの堅坑そのものは、すでにコンクリートの厚い蓋で閉塞されており、地下につながる深い闇を目の当たりにして実感することも、堅坑壁から噴き出て地底に落ちていく水音を耳にすることもできなくなってしまった。

残された巻揚機室は、赤レンガのイギリス積みで構築されている。窓や出入り口などの建物開口部は、全て上部をアーチに組んでいる。窓は後の改造により、レンガやコンクリートブロックで塞がれているところもあるが、本来縦長で上下開閉式の格子ガラス窓だったものである。窓台はかなり風化しているが、砂岩製のもので、本格的な造りである。そして、建物内部には、大きな巻揚機が稼働当時のままの姿で据え付けられている。元々の蒸気動のものではないが、現存の電動式も1933年以来のもので、黒光りしながらある様は圧巻である。

そもそも、宮原坑は、地下水を汲み上げて排出することを主な目的として設置された坑口である。地下で行われる石炭採掘において、大量の湧き水は難敵である。三池炭鉱は地下水が特に多く、開発に苦勞していたが、イギリス製のデビーポンプという当時最新鋭で、非常に高価な排水ポンプを導入して克服した。デビーポンプは、1893年、勝立坑に最初に導入された。当時、世界最大の排水ポンプであり、イギリスの文献や百科事典にも勝立坑のポンプが紹介されたほどであった。宮原坑は、勝立坑に次いでデビーポンプが設置された坑口であり、今、宮原坑第二堅坑櫓の脇にレンガ壁のように残っている建物遺構は、かつてのデビーポンプ室の一部である。汲み出された地下水を排出していた水路もよく残っている。

三池炭鉱専用鉄道敷跡 (世界文化遺産)

場所 大牟田市宮原町、米生町、青葉町などのあたり

ほりだされた石炭や、ほるために必要な道具などを運んでいた鉄道(線路)の跡だよ



駿馬小学校の校区にあります。ほり出された石炭や、ほるために必要な道具などを運ぶために作られた鉄道の跡です。

三池港がつくられる前、ほり出された石炭は、大牟田川の河口まで運ばれて、船に積まれていました。そのため、鉄道は、大牟田川のほうに向かって敷かれました。その後、三池港がつくられてからは、荒尾市にある万田坑をとって三池港に向かうように、鉄道が敷かれました。

また、初めは、石炭が積まれた貨車を、馬が引いていました。その後、馬に代わって、石炭を燃料として走る蒸気機関車となり、やがて、今と同じように、電気ので走る電気機関車になりました。鉄道は、ほり出された石炭や、ほるために必要な道具などを運ぶために作られましたが、やがて、工場に必要なものを運んだり、工場で作られたものを運んだりするようになりました。炭鉱や工場で働く人を運んでいた時代もありました。

2015年に、『明治日本の産業革命遺産』として、世界文化遺産に登録されました。



もっとくわしく！

三池炭鉱の炭鉱専用鉄道は、1878年に、大浦坑から大牟田川河口までを結ぶ馬車鉄道が敷かれたことに始まる。1889年に、三池炭鉱が三井に払い下げられるまでの間は官営だったため、大規模な鉄道の建設は実現しなかった。

三池炭鉱が三井に払い下げられた後、1891年には横須浜と七浦坑の間、1900年には七浦坑から宮原坑をとって万田坑までの間、1905年には万田坑から三池港(この時、三池港は建設中)までの間が開通して、全線が完成した。1897年には、九州鉄道線(後の国鉄、現在のJR)と直結され、線路の幅も、旧国鉄と同じ1067ミリメートルであった。

蒸気機関車は、当初アメリカ合衆国製のものが輸入された。その後、1897年までに、アメリカやイギリスから17台の蒸気機関車が輸入されたが、現在ではその車両は残されていない。1909年からは電化工事が始まり、1912年に三池港と万田坑の間が電化された。1937年には全線の電化工事が完了している。電気機関車は、1908年に輸入されたアメリカのジェネラルエレクトリック社製のものをはじめ、1949年製造のものまで活躍した。

三池炭鉱専用鉄道は、当初は採掘された石炭を運び出したり、採炭に必要な資材や機材を各坑口に搬入したりすることを目的として建設されたものである。その後、関連工場への原料搬入や製品の搬出、また、従業員が勤務地まで通勤するためにも利用されるようになった。地方鉄道の免許を得て、旅客輸送を行った時期もある。

住民にとって身近であり、「炭鉱電車」と愛着を込めて呼ばれていた三池炭鉱専用鉄道であったが、三池炭鉱の閉山後は、三井化学に引き継がれた部分以外の線路は撤去された。現在では、市街地を半円形状に取り囲むように、細長く残された廃線後の空き地が残されており、その面影を見ることができる。ただし、この空き地には、工業用水の水道管やガス管などたくさんのパイプラインが敷設されており、現在でも地域の産業活動を支える重要な土地であることに変わりはない。三池炭鉱専用鉄道敷跡の一部は、世界文化遺産、国の史跡に指定されている。

三川坑跡には、かつて活躍した電気機関車4両が展示されている。

場所 大牟田市新港町1

ほりだされた石炭を運び出すためにつくられた港で、今でも活躍しているよ



みなと小学校の校区にあります。ほり出された石炭を、船で運び出すために作られた港です。

有明海は干潟が広がっており、大きな船では大牟田に近づくことができませんでした。陸に近づこうとすると、船の底が海の底についてしまうからです。また、海の満ち引きの差が大きいので、潮が引いているときも、陸に近づくことができませんでした。そのため、ほり出した石炭を運び出すためには、石炭を小さな船に積んで長崎県の島原にある港まで運び、そこで大きな船に積みかえるという作業が必要でした。

この問題を解決するために、團琢磨さんが計画して作られたのが、三池港です。大きな船が陸に近づくことができるように、海の底を深くほる工事が行われました。また、大きな水門をつくり、潮が満ちたときに門を閉じて海の水をためたまにすることで、潮が

引いたときも船が浮かんでいられるようにしました。

三池港は1908年に完成しました。三池港が作られたことで、一度にたくさんの石炭を大きな船に積み、運び出すことができるようになりました。また、團琢磨さんが「港をつくれば、100年の基礎になる」といったように、三池港は石炭がほられなくなった今でも、様々なものを運び入れたり運び出したりするために使われています。

2015年に、『明治日本の産業革命遺産』として、世界文化遺産に登録されました。



もっとくわしく！

大牟田は、大きな港をつくるには、地形条件や自然条件が悪かった。有明海は遠浅で、干満の差が大きく、干潟が沖合まで広がる海として知られ、大型船が接岸できる港など望むこともできなかった。そのため、三池炭鉱で採掘された石炭は、大牟田川の河口で小舟に積み、ひき船にひかれて島原半島の口之津港まで運ばれ、そこで大型船に積み替えるといった手間をかけて、運び出されていた。

この手間や経費を省くとともに、石炭がなくなった後の大牟田のことを考え、大型船が入港できる港を構築する計画を立てたのは、團琢磨氏である。1902年から建設が始まり、375万6900円（現在の金額で、およそ500億円）の費用をかけて1908年に完成した。三池港の最も重要な点は、閘門（水門）である。大型船が、干潮時でも船底がつかないようにするためには、深さ8.5メートル以上の水位を保つ必要がある。そのため、観音開きとなる二枚の鋼鉄製の門によって閉め切る施設が、閘門である。港から沖合約2キロまで堤防を伸ばして航路を設けており、航路の先端には小さな灯台が設けられている。岸壁は、一定の形に切った石材を規則正しく積み上げた切石積みで造られており、現在のコンクリート岸壁にはない魅力ある景観を生み出している。

1971年に福岡県の管理となってからも、実際には三井の専用の港である状況に変化はなかったが、三池炭鉱が閉山した後は、内港北の岸壁の一部と、そこにつながる道路が福岡県に無償でゆずり渡されている。三池港は重要湾港に指定され、大牟田市の産業を支える港として今も稼働している。

場所 大牟田市新港町1

三池港に運びこまれたり、三池港から運び出されたりする荷物などをチェックしていたよ



みなと小学校の校区にあります。外国から荷物が運ばれて来たり、外国に荷物を運んだりするときに、荷物をチェックするための建物として作られました。

それぞれの国には、外国から運ばれてくる荷物に様々な決まりがつくられています。持ちこんではいけない荷物や、持ちこむためにはお金(税金)を払わなければならない荷物などがあります。税関は、そのよ

うな荷物をチェックして、手続きするところです。旧長崎税関三池税関支署は、そのために作られました。

九州には、九州の東側を担当する門司税関、九州の西側を担当する長崎税関、沖縄を担当する沖縄地区税関があります。九州の東側、西側といってもとても広いので、さらにそれぞれの地域に支署(それぞれの地域で税関の仕事をするところ)があります。ですから、長崎税関三池税関支署という名前は、「長崎税関の中で三池地区の税関の仕事をする支署」という意味です。2016年に国の史跡に指定されました。



もっとくわしく！

旧長崎税関三池税関支署庁舎は、1908年、三池港の開港と同時に開庁した。開庁以来、1965年3月まで57年間、税関支署として使用されていた。建物は、2014年に県指定文化財に指定され、土地は、2016年に国の史跡に指定されている。

「三池製作所沿革史」には「明治41年三池税関支署仮庁舎新築木造平屋建瓦葺本館建坪35坪2合5勺附属建物14坪1合7勺」と書かれていることから、仮の庁舎として建設されたことがわかる。明治時代の税関が残されているのは、国内でもめずらしい。明治時代の面影と西洋様式の歴史的な建物として、貴重な建物である。

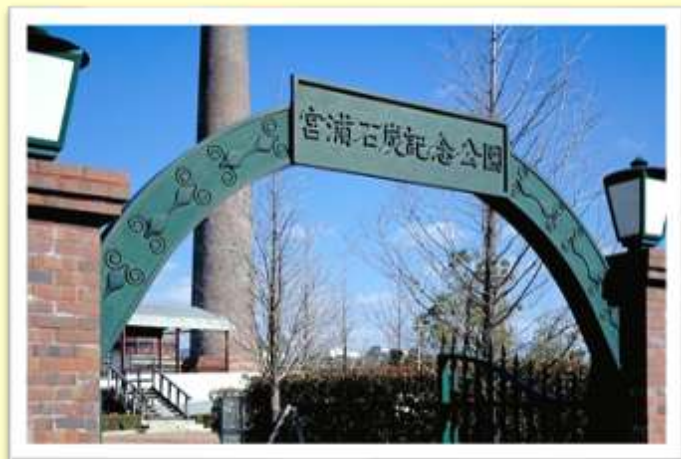
旧長崎税関三池税関支署の大きな特徴として、

- 1908年に開港した三池港とともに、今でも存在していること。
- 仮庁舎として建設され、仮庁舎のまま使用され続けたことは、仮庁舎として様々な制約の中で建設されたということが分かり、歴史的な背景を見ることができること。
- 三池炭鉱の私的港湾である三池港に設置されたことから、三池炭鉱が建物を設計、建築したと推測できること。
- 明治期の洋風建築としての雰囲気を残し、三池港の歴史・港湾機能を考える上でも重要であること。

宮浦石炭記念公園

場所 大牟田市西宮浦町 132-8

明治時代に作られた坑口で、レンガでつくられた高さ約31mの煙突がたっているよ



石炭をほるためなどに作られた建物で、昔は宮浦坑と呼ばれていました。今は公園になっています。

宮浦坑は宮原坑とちがい、地下まで、坂道のように斜めに下りたり上がったりしていました。そのときに使われていたトロッコ（石炭をほる人たちが乗っていた乗り物）や、石炭をほるために使っていた大きな機械が、今も展示されています。

また、トロッコを動かす機械の煙を外に出すために、高さ31.2mの煙突が作られました。この煙突は、炭坑節で歌われる「あんまり煙突が高いので、さぞやお月さん煙たかる」の、煙突のモデルになったといわれています。

MPLC石炭館

場所 大牟田市岬町 6-23

石炭に関係する人やもの、ことについて調べたり、体験したりすることができる場所だよ



石炭をほるための道具や機械、石炭の歴史など、様々なことについて学ぶことができる建物です。

人の手で石炭をほっていた時代から、大きな機械を使ってほっていた時代まで、たくさんの道具や機械が展示されています。また、三池炭鉱の歴史や、團琢磨さんなど三池炭鉱に関係する人についても学ぶことができます。

さらに、「ダイナミックトンネル」という展示コーナーでは、地下400mで石炭をほっていたときの様子を体験することができます。

人工島（初島・三池島）

場所 大牟田市の沖合（有明海）

地下で石炭をほるときに必要な空気を出し入れするために、人がつくった島だよ



昭和時代、大牟田では有明海の下で石炭をほっていました。地下で作業するためには、汚れた空気を地上に出したり、地上の空気を地下に送ったりする必要があります。そのためにつくられたのが、初島と三池島です。初島は、地下の汚れた空気を地上に出すための島で、陸地から 2km 離れたところにつくられ、1951 年に完成しました。三池島は地上の空気を地

下に送るための島で、陸地から 5.5km 離れたところにつくられ、1970 年に完成しました。

今は使われておらず、ベニアジサシやコアジサシなどの鳥のすみかになっています。

旧三川電鉄変電所

場所 大牟田市新港町 1-29

炭鉱電車を動かす電気が使えるようにするためにつくられた建物だよ



ほり出された石炭を港などに運ぶ貨車は、初め、馬が引いていました。その後、石炭を燃料として走る蒸気機関車になり、やがて、今と同じように、電気の力で走る電気機関車になりました。

ただし、つくられた電気は、そのままでは使えません。そこで、電気を使えるようにするためにつくられたのが、三川電鉄変電所です。

この建物は、出入り口や窓の上の方がアーチ型になったおしゃれなデザインになっています。三池炭鉱専用鉄道が走らなくなった後、2019 年 4 月から、信号電材株式会社の本社として活用されています。

場所 大牟田市有明町 2-3

1936年につくられ、大牟田空襲にも耐えて、今でも使われているよ



1933年に、前の市役所が火事で燃えてしまったため、同じ場所につくられたのが、現在の市役所です。1936年に完成しました。太平洋戦争のとき、大牟田は何度も空襲を受けて大きな被害が出ましたが、市役所はそのまま残り、現在でも使われています。建物は4階建てで、中央の塔は9階建ての高さになります。

市役所の人たちが働いている部屋には、飾りのある柱や壁、暖炉などが、つくられたときのまま残されていて、昔の様子を見ることができます。

場所 大牟田市宝坂町 2-2-3

「カルタックスおおむた」には、大牟田市立図書館と三池カルタ・歴史資料館があるよ



日本で初めてカルタがつくられたのは、大牟田とされています。そのことを記念してつくられた三池カルタ・歴史資料館と、新しくつくられた大牟田市立図書館が一緒になった建物が、カルタックスおおむたです。「カルタックス」とは、「カルタ」と「ブックス(本)」を合わせてつくられた言葉です。

カルタのことなどを詳しく展示した資料館は、日本

の中では、三池カルタ・歴史資料館だけです。三池カルタ・歴史資料館には、世界中から集められた、めずらしいカルタやトランプなどが展示されています。

場所 大牟田市宝坂町 2-92

令和6年に完成した、会議室や柔道場、剣道場もある大きな体育館だよ



2024年に完成した大きな体育館です。「おおむたアリーナ」は愛称として付けられたもので、正式には「大牟田市総合体育館」といいます。

おおむたアリーナには、メインアリーナのほかに、多目的ホールや会議室、柔道場、剣道場、卓球室、トレーニング室、キッズルームなど、たくさんの施設があり、様々な目的で使うことができます。

また、全ての部屋に空調が備えられていて、暑い日も寒い日も、快適に利用することができます。特に、メインアリーナと多目的ホールの空調は、バドミントンのシャトルなどが風の影響を受けないように工夫されています。

場所 大牟田市昭和町 163

映画「いのちスケッチ」の舞台にもなった、動物の幸せを考える動物園だよ



1941年に開園した動物園です。大牟田市動物園では、動物の幸せを考え、「環境エンリッチメント」と「ハズバンダリートレーニング」に取り組んでいます。

環境エンリッチメントとは、動物がよりよく生活できるよう、環境を整えることです。動物が自然の中で生活していると感じられるよう、ごはんのあげ方などが工夫されています。ハズバンダリートレーニングと

は、動物に協力してもらいながら動物の健康を守ることができるよう、トレーニングすることです。これまで、麻酔をしなければできなかったことも、動物が協力してくれることで、麻酔をしなくてもできるようになります。

えほんびじゅつかん ともだちや絵本美術館

場所 大牟田市若宮町 2-1 (大牟田市動物園内)

にほんはじめての、動物園の中にある絵本の美術館だよ



日本で初めて、動物園の中につくられた絵本の美術館です。大牟田市動物園の中にかかる橋(えんめい橋)の近くにあります。

美術館の中には、大牟田市出身の絵詞作家である内田麟太郎さんの「おれたち、ともだち!」シリーズの絵を描いた降矢ななさんの作品など、約1000点の原画が収められています。

また、絵本の読み聞かせやワークショップなど、絵本に関するたくさんのイベントが行われ、絵本の楽しさや面白さを広げるための取り組みが行われています。

きねん 記念グラウンド

場所 大牟田市黄金町 1-123

おおむたしやくしょよりも前に完成した、本格的な陸上競技場だよ



1929年に完成した陸上競技場です。正式には「御大典記念グラウンド」といいます。1926年に、昭和時代の天皇が天皇になられたことを記念してつくられました。「御大典」とは、そのような意味です。

完成した当時としてはめずらしい、本格的な陸上競技場でした。その後、1998年に、全天候型(雨が降っても水がたまりにくい、滑りにくい)競技場に作り

変えられました。今でも多くの市民に利用され、スポーツ市民の祭典や市民健康マラソンなど、たくさんのイベントが行われています。

場所 大牟田市健老町 461

かんきょう がくしゅう おおむた はたら ひと たてもの
環境について学習したり、大牟田で働く人たちをサポートしたりするための建物だよ



かんきょう がくしゅう かん
環境について学習したり、リサイクルなどエコに関
する活動を行ったりする「市民交流・学習センター」
と、おおむたし はたら ひと さんぎょう し えん
大牟田市で働く人たちをサポートする「産業支援
センター」がひとつになった建物です。

かい ちきゅう あた えいきょう まな
1階では、ゴミが地球に与える影響について学ぶ
ことができます。また、かてい つか
家庭で使わなくなったものの
さいりよう まな きょうしつ だ りよう りきよう
再利用について学ぶ教室や、ゴミを出さない料理教

室などが開かれます。2階では、リサイクルの様子やリサイクルされたものを見学することができます。3階には
ひろ かいぎしつ ありあけい みわた
広い会議室や、有明海を見渡せるリフレッシュルームなどがあります。

場所 大牟田市昭和町 223

おおむたアリーナや大牟田市動物園、えんめい ひろ こうえん
おおむたアリーナや大牟田市動物園、延命プールなどがある、とても広い公園だよ



おおむたし しゅうねん きねん
大牟田市が 20周年になったことを記念してつくら
れた公園です。かたひらやまぜんたい こうえん
片平山全体が公園になっていて、公園
えん なか おおむたし どうぶつえん
園の中には、おおむたアリーナや大牟田市動物園、
えんめい えんめいきゅうじょう さまざま たてもの
延命プール、延命球場など、様々な建物がつくられて
います。また、「ふれあいの丘」「いのちの森」「お花
みひろば はな みひろば
見広場」などもあり、お花見広場にはたくさんのさくら
木が植えられています。

おおむたアリーナがつくられるときに、えんめいこうえん いちぶ あたら ねん
おおむたアリーナがつくられるときに、延命公園の一部も新しくなり、2026年にはアリーナのとなりに「芝生広
場」がつくられました。しばふひろば ゆうぐ あそ
芝生広場では、たくさんの遊具で遊ぶことができます。

場 所 大牟田市岬町 1-3

サッカーコート約31面ぶんの広さがある、とても広い公園だよ



「文化交流ゾーン」「レクリエーションゾーン」「スポーツ休養ゾーン」の3つの場所でつくられた公園です。有明海を埋め立てた土地につくられています。

文化交流ゾーンは、大牟田の歴史や文化を紹介する場所で、展望の丘や郷土の森、ふれあいの池などがあります。レクリエーションゾーンは、大人や子どもが楽しむ場所で、たくさんの遊具がある冒険広場

や自然観察の池などがあります。スポーツ休養ゾーンは、スポーツなどを楽しむ場所で、サッカーなどができる多目的広場やテニスコート、健康遊歩道があるトリムコースなどがあります。

場 所 大牟田市大字四ヶ 1221

たいいくかん りょう り し つ おん がく し つ じょう さまざま もく て き つ か ぼ し ょ
体育館や料理室、音楽室、キャンプ場などがあり、様々な目的で使える場所だよ

学習やスポーツ、キャンプなど、様々な活動ができる場所です。宿泊することもできます。「リフレス」とは、「リフレッシュ（体や心をすっきりさせる）」と「プレイス（場所）」を合わせてつくられた言葉です。

リフレスおおむたでは、子どもたちが協力しながらキャンプするイベントやクッキング教室、陶芸教室など、様々なイベントが行われています。

また、体育館にはクライミングウォール（でこぼこしたものが取り付けられている壁）があり、クライミング（でこぼこした部分に手や足をかけながら、壁を登っていくスポーツ）を体験することができます。

場 所 大牟田市西港町 2-6

がいこくせん せんいん しゅくはく
外国船の船員が宿泊したり、パーティーなどを開いたりするためにつくられた建物だよ



み い け ー ー お づ がいこくせん せんいん しゅくはく せいじ
三池港を訪れる外国船の船員が宿泊したり、政治家
か などを招いたりする場所としてつくられた建物で
す。み い け ー ー と とも に、1908年 に 完 成 し ま し た。当 時 は
に ほん ふう たてもの がいこくふう せいようふう たてもの あ
日本風の建物と外国風（西洋風）の建物を合わせた
かたち つく げんざい がいこくふう たてもの
形で作られていましたが、現在は外国風の建物だけ
が 残 されています。

1949年には、昭和時代の天皇が三井港倶楽部を

お づ に わ き ねん き う げんざい やまのうえまち みつ い みなと く ら ぶ お な もくでき みつ い やまのうえ
訪れ、庭に記念の木を植えられました。なお、現在の山上町には、三井港倶楽部と同じような目的で、「三井山ノ上
倶楽部」が作られていましたが、戦争のときの空襲によって焼けてしまい、現在は残っていません。

場 所 熊本県荒尾市上井手 ～ 福岡県みやま市高田町渡瀬

げんざい くまもとけんあらおし ふくおかけん し せいかつ ちゅうしん みち
現在の熊本県荒尾市から福岡県みやま市につながる、生活の中心となった道だよ



三池藩陣屋の門(現在は寿光寺の門となっている)

え ー ー じ だ い げんざい おお お た し みなみがわ み い け は ん
江戸時代、現在の太宰府市の南側は「三池藩」で
した。「藩」は、現在の都道府県のようなものです。ま
た、藩を治めた武士が住んでいたのが「陣屋」です。
そこで、「三池藩陣屋」とは、三池藩を治めていた武
し ー ー 士 が 住 ン だ ー ー 場所のことです。現在の三池小学校
の 場所 に あ り ま し た。三池小学校には、今でも、当時
の 陣 屋 の 屋 根 の 一 部 が 残 されています。

「街道」は、昔の人たちの生活の中心となっていた道のことです。三池街道は、三池藩陣屋の前をとおり、現在の
あらおし や みやま市 へ つ な が っ て い ま し た。三池街道沿いには、現在でもたくさんの寺や神社などがあります。

場 所 大牟田市谷町 1-11、12

おおむたししゅっしん こっかいぎいん つと こがきたろう た いえ
大牟田市出身で、国会議員を務めた古賀喜太郎さんが建てた家だよこがきたろう おおむたししゅっしん せいじか
古賀喜太郎さんは、大牟田出身の政治家です。

1921年におおむたしぎかいぎいんえらに選ばれ、1935年
はふくおかけんぎかいぎいんえらに選ばれました。その後、1946
年には、たいへいようせんそうごはじにおこなしゅうぎいんぎ
いんせんきょこっかいぎいんえら
員選挙で、国会議員に選ばれました。

こがけじゅうたくおもや こがきたろう た
古賀家住宅主屋は古賀喜太郎さんが建てたもの
で、そとからみるとわふうにほんふうのつくりになっています

すが、げんかん おうせつしつ ようふう がいこくふう ざしき はな わふう つく おどろ きやく あ へや
使用分けることができるようになっています。2021年に、くにどうろうくゆうけいぶんかざい どうろうく
登録有形文化財に登録されました。

場 所 大牟田市早鐘町 128

いし つく がた みず なが はし にほん いちばんふる はし
石で作られたアーチ型の水を流すための橋としては、日本で一番古い橋だよ

かわをまたいで水を流すために作られた橋です。石
で作られていて、水を流すために作られた石の橋と
しては、にほんいちばんふるはし
日本が一番古い橋です。

えどじだい たつかみず きつか みいけはん
江戸時代、田に使う水をためておくために、三池藩
は早鐘池という、ため池をつくりました。この池から水
路をひいて、田に水を流したかったのですが、途中で
さかまがわかわなが
逆川という川が流れていて、そのままでは、ため池の

みずかわなが
水は川に流れてしまいます。そこで、かわをまたぐように作られたのが、はやがねめがねばし きつか はし おおあめ
早鐘眼鏡橋です。木を使った橋では、大雨で
かわこうずい
川が洪水になったときに壊れてしまうため、石を使った丈夫な橋が作られました。

場所 大牟田市東萩尾町 290

せきしつ かべ あかいろ か え ほっけん こふん
石室の壁に赤色で描かれた絵が発見された古墳だよ

いま やく ねんまえ つく ちよっけい たか
今から約1400年前に作られた、直径19m、高さ
4m の丸い形をした古墳(円墳)です。古墳とは、大
むかし ひと はか
昔の人のお墓です。

はぎのおこふん つち やま ち なか おお
萩ノ尾古墳は、土が山のように盛られ、その中に大
いし く あ つく へや
きな石を組み合わせで作られた部屋があります。部
や かべ あかいろ か え のこ
屋の壁には、赤色で描かれた絵が残されています。
この絵は、え ふね ゆみ たて あらわ
船や弓、盾を表しているといわれています。

こふん つく なるびやくねん た こふん うえ き は こふん わ
古墳は、作られてから何百年と経つうちに、古墳の上に木などが生えて、古墳だと分からなくなることがありま
す。はぎのおこふん へ や なか いし げんろく ねん きざ え ど じ だい ほっけん おも
す。萩ノ尾古墳は、部屋の中の石に「元禄5年」と刻まれていたことから、江戸時代に発見されたと思われます。

場所 大牟田市黄金町 2-469

かがみ くだたま けん かま ほっけん こふん
たくさんの鏡や管玉、剣、鎌などが発見された古墳だよ

いま やく ねんまえ つく ちよっけい
今から約1500～1600年前に作られた、直径
30m、高さ 6.5m の丸い形をした古墳(円墳)です。

くぐりづか こふん はぎのおこふん いし つく
潜塚古墳には、萩ノ尾古墳のような石で作られた
へや ありませんが、1959年に調査が行われ、2つ
の石棺(石で作られた、亡くなった人を入れる棺)が
みつかりました。

また、せつかん なか ひと ほね かがみ くだたま わかし ひと
また、石棺の中からは、人の骨や鏡、管玉(昔の人

のネックレスのようなもの)などがみつかり、石棺の周りからも、てっけん かま ほっけん ほっけん
は、現在、げんざい み いけ れきし しりょうかん (カルタックスおおむた)に展示されています。

場 所 大牟田市の西側

し お み ひ さ に ほん いち おお う み ひ が た ひ ろ
潮の満ち引きの差が日本一大きな海で、干潟が広がっているよ

う み み づ い ち に ち す い め ん た か た か
海の水は、一日のうちに、水面の高さが高くなつたり低くなつたりしています。これを、潮の満ち引きといいます。有明海は、潮の満ち引きの差が日本一大きく、5m以上もあります。

あ り あ け か い ち ゅ ぐ が わ や べ が わ お お
また、有明海には、筑後川や矢部川などの大きな川がたくさん流れ込んでいるため、川から多くの土や砂が運ばれてきて、海には干潟が広がっています。

ひ が た
この干潟には、ムツゴロウなどのめずらしい生き物がすんでいます。また、広い干潟や大きな潮の満ち引きの差を生かして、のりの養殖がさかんに行われ、たくさんののりが作られています。

場 所 大牟田市の東側

お お た し い ち ば ん た か や ま さ ん ち ょ う ち か み い け ぐ う で ん せ つ い け
大牟田市で一番高い山で、山頂近くには三池宮と伝説の3つの池があるよ

お お た し や ま な か い ち ば ん た か や ま
大牟田市の山の中で、一番高い山です。388mの高さがあります。尾根の西側が大牟田市で、東側は熊本県南関町になります。

み い け ざ ん さ ん ち ょ う ち か ひ ろ ち ゅ う す そ う げ ん な が
三池山の山頂近くに広がる茶臼草原はとても眺めがよく、東の方角には阿蘇山、西の方角には有明海や雲仙、南の方角には小岱山を眺めることができます。元日に、初日の出を見に来る人も多い場所です。

さ ん ち ょ う ち か み い け ぐ う ち い い け
また、山頂の近くには三池宮があり、小さな3つの池があります。この池は、大牟田に伝わる「ツガニの恩返し」の中で、暴れた大蛇がぶつかったときに地面がくぼみ、池となった、といわれています。

場所 大牟田市の北側

ありあけかい おおむたし なが
有明海や大牟田市内を眺めることができる、眺めのいいところだよ

あまぎこうえん くろさきこうえん つづ たか やま
甘木公園から黒崎公園まで続く、高さ123mの山
です。きたがわ ふくおかけん し めん やべがわ
北側は、福岡県みやま市に面していて、矢部川
けんりつ しぜんこうえん いちぶ してい
県立自然公園の一部として指定されています。

あまぎこうえん なが ありあけかい おおむたし
甘木公園は眺めがよく、有明海や大牟田市のまち
の様子を眺めることができます。また、たくさんの桜
の木が植えられ、はる おおひと はなみ おどず
春には多くの人々が花見に訪れます。

くろさきこうえん あた くろさきかん ぜおんづか こふん
黒崎公園の辺りには、「黒崎観世音塚古墳」という

なが たか おお ぜんぼうこうえんふん やま うえ つく こふん おお いぜん
長さ97m、高さ10mの大きな前方後円墳があります。山の上に作られた古墳ですが、あまりに大きいので、以前
は古墳だと思われていませんでした。1994年の調査によって、ぜんぼうこうえんふん
前方後円墳であることが分かりました。

場所 大牟田市内

すわがわ おおむたし おお かわ なが
諏訪川をはじめ、大牟田市には4つの大きな川が流れているよ

おおむたし すわがわ おおむたがわ どうめんかわ
大牟田市には「諏訪川」「大牟田川」「堂面川」
くまがわ という、4つの大きな川が流れています。

すわがわ くまもとけんなんかんまち なが かわ くま
諏訪川は、熊本県南関町から流れてくる川で、熊
本県では「隈川」と呼ばれています。また、はやめちく
では「馬込川」と呼ばれることもあります。

おおむたがわ わかし こうじょう よこ みず なが なな
大牟田川は、昔は工場の汚れた水が流れていて「七
いろがわ よ いま
色川」と呼ばれていましたが、今は、とてもきれいです。

どうめんかわ さくら き う ばしよ はる ふうけい み
堂面川は、たくさんの桜の木が植えられている場所があり、春はとてもきれいな風景を見ることができます。

くまがわ おおむたし いちばんきた なが かわ おおむたし し わ かわ
隈川は、大牟田市の一番北を流れる川です。大牟田市とみやま市を分ける川になっています。

ふ こう じ が りゅう ば い 普光寺の臥龍梅

場 所 大牟田市今山 2538

龍が地面をはうように見えることから「臥龍梅」と名付けられた梅の木だよ



普光寺は、今から約1200年前に建てられたといわれています。普光寺には、450年以上前に植えられたと思われる、梅の木があります。この梅の木は横に長く伸び（長さ約24m）、龍が地面をはうように見えることから、「臥龍梅」と呼ばれています。

たくさんの梅の木が植えられているように見えますが、一本の梅の木が横に長く伸びたものです。

毎年、2月下旬～3月上旬には、八重咲き（花びらが重なったような咲き方）の赤い花が咲き、たくさんの人が見学に訪れます。福岡県の天然記念物に指定されています。

じょう りん じ 定林寺のあじさい

場 所 大牟田市今山 1878

「あじさい寺」と呼ばれるくらい、たくさんのあじさいが咲いているよ



定林寺は、今から約800年前に建てられたといわれています。定林寺には、約8000株のあじさいが植えられています。そのため、定林寺は「あじさい寺」とも呼ばれています。

定林寺のあじさいは、高さ 1m～2m ほどで、毎年5月下旬～6月中旬に咲きます。ガクアジサイ系やヤマアジサイ系、セイヨウアジサイ系など、様々な種類

のアジサイが植えられていて、アジサイは土によって色が変化すると言われていたため、5月下旬～6月中旬には、色とりどりのアジサイを見ることができます。

場所 大牟田市櫟野土穴 928

300年以上生きている、福岡県で一番大きなエノキの木だよ



エノキは、アサ科の落葉樹(ある時期になると、葉を落とす木)です。土穴のエノキは、福岡県の中で、一番大きなエノキです。高さは約25m、幹の周りは約5m あります。樹齢(木の年齢)は 300年以上といわれています。

エノキは神様の宿る木といわれ、神社や寺に植えられていることが多いのですが、土穴のエノキは、民

家の庭の近くに植えられ、長い時間をかけて大きく育っています。福岡県の天然記念物に指定されていて、いつでも見学することができるようになっています。

場所 大牟田市櫟野石坂 2964

地面の下の様子や、埋まっている石炭の様子を見ることができる場所だよ



断層が地面の上にあらわれた場所では、ふだんは見ることのできない、地面の下の様子を見ることができます。

米ノ山断層は、大牟田の地面の下にある、長さ約10km ほどの断層ですが、焼石山の辺りでは、地面の上にあらわれていて、福岡県の天然記念物に指定されています。

焼石山公園は、公園全体が米ノ山断層の上につくられていて、公園のどこからでも、地面の下の様子を見ることができます。石炭がふくまれている場所もあり、大牟田の地面の下には石炭があったことが分かります。

場 所 玉川小学校区の辺り

あ そ さん ふん か つ い し か る
阿蘇山の噴火によって積もったものからできた石で、けずりやすくて軽いよ

やく まんねんまえ くまもとけん あ そ さん おお ふん か
約9万年前、熊本県にある阿蘇山で大きな噴火が
おこりました。この噴火によって出された灰や軽石な
どは、と お ひろ が っ て 積 も り、あ そ さん や く
離れた玉川小学校区の櫟野地区にも積もりました。
このとき積もったものが固まってできた石を、櫟野地
区では「櫟野石」と呼んでいます。

い ち の い し は い か る い し
櫟野石は灰や軽石からできているため、けずりやす

く 軽 い の が 特 徴 で す。そ の た め、昔 から 様 々 な も の を つく る と き に 使 わ れ ま し た。田 隈 八 幡 神 社 の 鳥 居 や、早 鐘
め が ね ば し み い け し ょ う が っ こ う ち か じん や め が ね ば し い ち の い し つ か つ く
眼鏡橋、三池小学校の近くにある陣屋眼鏡橋も、櫟野石を使って作られています。

場 所 大牟田市の西側

お お む た ひ と き か い か ん た く と ち
大牟田には、人や機械などによって干拓された土地がたくさんあるよ

う み て い ぼう と り く ち か
海を堤防でせき止めて、陸地につくり変えることを
「干拓」といいます。大牟田は、陸地の近くに干潟が
ひろ が っ て い る た め、か ん た く こ う じ が し や す い 場 所 で し た。
そのため、昔から、干拓工事が行われてきました。J
あ る せん ろ に し が わ と ち おお か ん た く
Rの線路から西側の土地の多くは、干拓によってつく
られたものです。

ひ と ち ら だ け こ う じ お こ な こ ろ さ ぎ ょ う よ う す
人の力だけで工事が行われていた頃の作業の様子

は、が た お ど い ま う つ し ら が ね す な は ま ひ か ま つ ば ら か い が ん
は、「潟いね踊り」として、今も受け継がれています。また、「白金」（砂浜が光っていたことから）や「松原」（海岸に
まつ き う おお む た おかし う み あ ら わ ち め い の こ
松の木が植えられていたことから）など、大牟田には、昔は海だったことを表す地名がたくさん残されています。

場所 大牟田や有明海の地面の下

おおむた せきたん めいじじだい しょうわじだい にほん はってん ささ
大牟田でとられた石炭は、明治時代や昭和時代の日本の発展を支えたんだよ



せきたん おおむかし しょくぶつ か せき いし かに
石炭は、大昔の植物の化石です。石のように硬い
のに燃えるため、昔から燃料として使われてきました。

おおむた では、1469年に伝治左衛門さんが稲荷山
で石炭を発見し、その後、大牟田や有明海の地面の
下でとられるようになりました。日本で一番多くの量
がとられた時期もあり、働く人や工場、お店などが増
え、大牟田のまちはどんどん発展していきました。

また、おおむた でとられたせきたん は、明治時代には鉄をつくる燃料として使われ、昭和時代には工場などの燃料とし
て使われました。おおむた でとられたせきたん は、おおむた のまちなみだけでなく、日本の発展のエネルギーとなっていました。

場所 大牟田市の公園や街路樹など

おおむた せきたん おお おおむかし いし
大牟田でとられていた石炭の多くは、大昔のメタセコイアが石になったものだよ



メタセコイアはおおむかし から存在する木です。人間は、
約500万年～700万年前に誕生したといわれていま
すが、メタセコイアは約1億年前には誕生していたと
いわれています。生長が早く、大きくなるのが特徴
で、大きなものでは高さ 50m ほどになります。

おおむた でとられていたせきたん は、メタセコイア
が地面の下に埋まり、やがて化石になったものです。

また、メタセコイアは、木の形がきれいで、生長が早いので、公園に植えられたり、街路樹として植えられたりする
ことが多い木です。おおむた でも、せきたんさんぎょうか がくかん みやうらせきたん きねんこうえん ちか がいろじゅ
が、大牟田でも、石炭産業科学館や宮浦石炭記念公園の近くの街路樹として植えられています。

場 所 大牟田の勝立層

おおむた では、せかい で初めて はっけん された か せき が 5 しゅるい 見つかっているよ



じめん の下は、すな の層や いわ の層など、お菓子のミルフィーユのように、いくつもの層が重なっています。これを「地層」といいます。この地層では、大昔の動物や植物が石のようになったものが見つかることがあります。これを「化石」といいます。

おおむた では、かつたちそう という層の中から、いくつもの しゅるい の化石が はっけん されています。

とく に、「ペトロロカス」「カルカロドンノダイ」「ノダノコバアサヒガニ」「ヨシヒロスナモグリ」「カッタチガザミ」の5 しゅるい は、せかい で初めて み 見つかった どうぶつ の化石です。

場 所 有明海の干潟

さかな ひ が た などの りくち で せい かつ する、めずらしい い も の 生き物だよ



ムツゴロウは、日本では、ありあけかい やつしろかい に すん でいる魚です。魚ですが、ひ が た の うえ で せい かつ する めずらしい い も の 生き物です。

ムツゴロウは、エラでこきゅう するだけでなく、ひ ふ で もこきゅう することができます。また、むな の きんにく が 発達しているのて、て のように うご かって い どう することができます。だから、ひ が た の うえ で せい かつ できるのです。

ひ が た の うえ には、ムツゴロウによく似た トビハゼ も すん でいます。ムツゴロウと トビハゼ は まちが いますが、ムツゴロウは トビハゼ より からだ おお からだ あお てん とくちよう なのが特徴です。

場所 大牟田の延命公園、甘木山など

九州の北のほうや西のほうにすんでいる、小さなサンショウウオだよ



体の大きさが7~15cm ほどの、サンショウウオの仲間の中でも体の小さなサンショウウオです。

サンショウウオは両生類です。両生類は、生まれたときは水の中で生活し、大きくなってからは陸の上で生活する生き物のことです。サンショウウオは漢字で「山椒魚」と書きますが、魚類ではなく両生類です。

サンショウウオの「サンショウ」とは、体から調味料

の山椒に似た匂いの液を出すことから名付けられています。また、カスミサンショウウオの「カスミ」とは、体に朝もやのような霞に似た模様があることから名付けられています。

場所 有明海の初島、三池島など

夏になると卵を産みに大牟田にやってくる、カモメの仲間だよ



ベニアジサシはカモメの仲間、渡り鳥です。

渡り鳥は、季節によってすむ場所を変える鳥です。暑さや寒さを避けるため、生活しやすい場所まで長い距離を飛んで移動します。

ベニアジサシも、7月頃になると大牟田まで飛んできて、有明海の初島や三池島にすみ、卵を産みます。そして、9月頃になると、生まれた鳥たちと一緒に、

また、遠くまで飛んでいきます。以前行われた調査では、大牟田から飛んでいったベニアジサシが、大牟田から約6400km も離れたオーストラリアで発見されたこともあります。

ぜんでこおど 錢太鼓踊りとひゅうたん廻し

場所 大牟田の岡天満宮にて

えどじだいから続く、田の豊作を願って行なわれる踊りだよ



まいとしがつのにちかみうちしょうがっこうくおかてんまんぐうおこな
毎年9月25日に、上内小学校区の岡天満宮で行
われる行事です。

ぜんでこおど たけづつなかかねい たいこぜん
錢太鼓踊りは、竹筒の中にお金を入れた太鼓(錢
太鼓)を手にもってくるくる回しながら、田植えから稲
刈りまでの様子を表した動きで踊ります。稲がたくさ
ん実るよう願って踊られているといわれています。

ひゅうたん廻しは、右手にうちわ、左手にひょうたん

を持って、うちわでひょうたんをあおぐような動きで踊ります。昔、お宮でお酒に酔った男の人が、ふらふらと踊り出
したのが始まりといわれ、米作りのために雨が降るように願って踊られているといわれています。

水（臼）かぶり

場所 大牟田の三池本町祇園宮にて

めいじじだいおこな かじお ねがぎょうじ
明治時代から行われている、火事が起こらないように願う行事だよ



まいとしがつのみ いけしょうがっこうく み いけほんまち ぎ おんぐう
毎年1月に、三池小学校区の三池本町祇園宮で
行われる行事です。

めいじじだい み いけちく おおき かじお
明治時代に三池地区で大きな火事が起こり、それ
以来、火事が起こらないように願って行われていま
す。中止されていた時代もありましたが、今は、三池
本町祇園宮で続けられています。

みず い うす おも さまざま うす
水を入れた臼やバケツの重さは様々ですが、臼だ

と、重いもので 80kg にもなります。寒い時期ですが、両手で臼を力いっぱい持ち上げて、頭から冷たい水を被つ
たあと、体を反らせながら後ろへ放り投げます。

場 所 大牟田の黒崎地区

ひと ちから かん たく こう じ さ ぎょう よう す あらわ お ど
人の力だけで干拓工事をしていたころの、作業の様子を表した踊りだよ

お お む た た はたけ と ち ふ おかし
大牟田では、田や畑などの土地を増やすため、昔
から干拓が行われてきました。機械がない時代には、
こう じ すべ ひと ちから おこな
工事は全て、人の力だけで行われていました。その
こう じ よう す あらわ お ど
工事の様子を表した踊りが「潟いね踊り」です。

が た ひ が た だろ き い
「潟いね」とは、干潟の泥をクワで切ってカゴに入れ、
カゴを せ お はこ さ ぎょう おも だろ なん ど
背負って運ぶ作業のことで、重い泥を何度も
なん ど はこ たい へん さ ぎょう
何度も運ぶため、とても大変な作業でした。

が た お ど さ ぎょう よう す あらわ ひ が た だろ き い うご が た き
「潟いね踊り」はこの作業の様子を表していて、干潟の泥をクワで切ってカゴに入れる動きをする「潟切りさん」
と、泥を入れたカゴを せ お はこ うご
背負って運ぶ動きをする「イネカタさん」に分かれて踊られます。

場 所 大牟田の駛馬天満宮にて

わる ね が おこな
悪いことを「うそ」に替えて、良いことが起こるように願って行われるよ

うそ とり なか ま おかし くち ぶえ い
鶯は鳥の仲間です。昔は口笛のことを「うそ」と言
っていて、鶯は鳴き声が口笛に似ていることから鶯と
うそ な ごえ くち ぶえ に
名付けられ、人々に親しまれてきました。また、かみさまの
な づ ひと びと した
使いであるともされ、大切にされてきました。

「うそ替え」は、だ さい ふ し だ さい ふ てん まん ぐう は じ
太宰府市にある太宰府天満宮で始
まってに ほん じゅう ひろ
日本中に広まったもので、駛馬天満宮でも春と
あき おこな
秋に行われています。さい が い わる で き ごと うそ
災害などの悪い出来事を嘘

(=鶯)に替えて、良いことが起こるように願って、また、自分がついてしまった嘘を鶯に替えて、良い心になるように
ね が おこな
願って行われているといわれています。

大牟田「大蛇山」まつり

場所 大牟田の大正町や三川坑跡、各地域にて

大牟田で行われていた祇園祭、港まつり、炭都まつりをひとつにした祭りだよ



毎年、たくさんの人が訪れる、大牟田を代表する祭りです。

大牟田の三池地域では、昔から、三池本町祇園宮や三池藩三池新町彌劔神社で、病気を追い払い、農作物がよく育つことなどを願って、祇園祭が行われてきました。大蛇の形をした山車を神様にお供えするのが特徴で、やがて、本宮彌劔神社、大牟田神社第二

区祇園、三区八剣神社、諏訪神社でも行われるようになりました。この6つの神社の大蛇山は「祇園六山」と呼ばれます。その後、昭和時代になると、様々な地域で大蛇山が作られるようになっていきました。

この祇園祭を中心として、一万人の総踊りなどを行っていた「炭都まつり」、ランタンフェスタなどが行われる「港まつり」を合わせたものが、『おおむた「大蛇山」まつり』です。

大蛇山は昼間、それぞれの地域を周り(巡行)、口から火と煙を吐いて、病気や農作物を食べる虫などを追いかったり、人々の健康を願ったりします。そして、祇園六山巡行や大蛇山大集合パレードの時間になると、大正町に集まり、いくつもの大蛇山が一斉に巡行します。一万人の総踊りも行われ、たくさんの人でにぎわいます。



もっとくわしく！

おおむた「大蛇山」まつりの初日には、祇園六山巡行が行われる。この祇園六山には、それぞれに特徴がある。

- ①三池本町山(三池藩大蛇山)は、雲龍の彫刻の山車が特徴的であり、大蛇の顔は黒、緑、朱の3色で塗られ、こぶが3つある。
- ②三池新町山(三池祇園宮)は、昇天龍や金の蹄を持った謎の動物など、見事な彫刻が施された山車と意匠を凝らした大蛇が特徴的であり、大蛇の顔はこぶが1つで、緑色を基調とした配色がされている。
- ③本宮本町山(本宮彌劔神社)は、大牟田祇園で最初到大蛇山を取り入れており、大牟田祇園・諏訪祇園の本宮である。
- ④大牟田第二区祇園山は、昔から、黒・朱・青緑の三色にこだわって大蛇山を製作している。山車の後方で、囃子に合わせて踊る女神輿を初めて取り入れた山である。
- ⑤大正山(第三区祇園)は、三池新町から伝えられた技術、製法に新しい技術を加えながら、緑色の配色を基調として作製されている。また、節目ごとに、金色を基調とした大蛇を作製している。
- ⑥諏訪山(諏訪神社)は、首を大きく左右に振りながら練り歩き、荒々しいのが特徴で、男大蛇と呼ばれている。また、数年に一度は、白色の大蛇を製作している。

大牟田の大蛇山は、大牟田だけでなく、アメリカのハワイ州で行われるホノルル・フェスティバルに、毎年のように参加している。現地にはホノルル大蛇山があり、毎年、グランドパレードのとりを飾っている。

場 所 大牟田の三池神田脇通り

まいとし がつ にち がつ にち おこ
毎年、3月1日と3月2日に行われる 300年以上続く市だよ

「市」とは、たくさんの人が集まって、物を売ったり買ったりする場所のことです。

大牟田の三池地域では、昔から、三池街道沿いに人が集まり、道具や食べ物の交換が行われていました。それが元になって始まったのが「三池初市」といわれています。300年以上も続けられていて、毎年3月1日、3月2日に行われます。

現在は、三池小学校の近くの三池神田脇通りで行われており、400m ほどの道沿いに、竹で作った花てぼや竹かごを売るお店、花の苗や植木を売るお店、食べ物を売るお店が並び、たくさんの人が訪れます。

場 所 大牟田の倉永地域など

むかし つた でんとう てき かたな おな つく かた つく ほう ちょう
昔から伝わる伝統的な刀づくりと同じ作り方で作られている包丁だよ

大牟田には、刀などを作る職人である、三池典太（伝太とも書く）の話が残されています。三池地域に住んでいた三池典太の作る刀は名刀とされ、国宝にもなっていました。

この三池典太の刀づくりを手本としたのが、大牟田の四郎國光です。昭和時代、四郎國光が作った刀は、大会で日本一に選ばれました。

四郎國光の刃物づくりの技術は、今でも受け継がれています。「打ち刃物」と呼ばれる、昔からの作り方で作られる包丁や鎌、クワなどは、よく切れて使いやすくと人気があります。

場 所 大牟田の白川地域など

むかし たけ つか どうぐ かざ もの さまざま つく
昔から、竹を使った道具や飾り物など、様々なものが作られてきたよ

たけ せいちよう ほや かんそう じようぶ
竹は生長がとても早く、乾燥させれば丈夫で、しか
もよく曲がります。さらに、よこ ほうこう わ
縦の方向には割れにくい、
たて ほうこう わ
縦の方向には割れやすいなど、ものをつく さぎょう
すい特徴もあります。そのため、むかし どうぐ かざ もの
などをつくるための材料として使われてきました。

おおむ た はな たけ たけ
大牟田でも、花てぼ（竹かご）や竹ざるが作られ、
み いけはついち しょうひん う
三池初市などで商品として売られてきました。どちら

ほそ さ たけ あ つく どうぐ さいきん たけ つか どうぐ つか すく いま
も、細く割いた竹を編んで作られた道具です。最近では、竹を使った道具を使うことは少なくなりましたが、今でも
だいじゃやま たけ つく ちい だいじゃやま たけ つか かざ もの つく
ミニ大蛇山（竹で作った小さな大蛇山）など、竹を使った飾り物が作られています。

おおむ た みらい かんが せきたん しごと と く ひと
大牟田の未来のことを考えながら、石炭の仕事に取り組んだ人だよ

おおむ た せきたん ばってん おお
大牟田のまちが石炭で発展するために、とても大
きな役割を果たした人です。

だんたく ま いま ふくおか し う さい いわ
團琢磨は今の福岡市で生まれ、13才のときに岩
倉使節団とともにアメリカへ留学し、鉱山について学
びました。日本に戻ったあとは、とうきようだい かく めい じ せい ふ
東京大学や明治政府
の下で働き、26才のときに大牟田へやってきました。

だんたく ま ち かすい
團琢磨は、まず、たくさんの地下水がわいていた
こうどう すいぼつ せ かいいち おお
坑道を水没させないように、世界一の大きさだったデ
ビーポンプを取り付け、地下水の問題を解決しまし
た。また、せきたん はこ てつどう けいかく た おおむ た
石炭を運ぶ鉄道をひく計画を立て、大牟田

のまちの中だけで、せきたん はこ だ てき
石炭をとって運び出すことまで出来るようにしました。さらに、み いけこう けいかく た いちど
三池港をつくる計画を立て、一度
にたくさんの石炭を運び出すことが出来るようにしました。三池港を計画したとき、だんたく ま せきたん
團琢磨は「石炭はいずれとれな
くなる。みなと つく せきたん な ほか しごと
港を作れば、石炭が無くなっても他の仕事をする事ができる。大牟田は100年後も発展するだろう」と言
いました。おおむ た みらい かんが だんたく ま けいかく おおむ た いま ゆた
大牟田の未来を考えた團琢磨の計画によって、大牟田は今でも豊かなまちになっているのです。

立花種次

三池藩の初めての藩主（三池藩を治めた人）だよ



種次の父 立花直次

江戸時代、現在の大牟田の南側が三池藩になったとき、初めて藩を治めた人（藩主）です。

立花種次の祖父である高橋紹運と、父である立花直次は、豊臣秀吉の部下として活躍しました。そのため、直次の子である種次は三池藩の初めての藩主に選ばれ、三池藩を治めました。種次は、三池街道に陣屋（三池藩陣屋）をつくりました。

また、父や祖父などの祖先のために、現在の今山地域に寺をつくり、祖父の名前をとって「紹運寺」と名付けました。今も、紹運寺には、高橋紹運や立花直次、立花種次の墓が残されています。

し
市

しょう

章（市のしるし）

漢字の「大」と「田」を組み合わせてデザインされているよ



「章」とは、しるし（＝マーク）のことです。都道府県や市町村には、それぞれが決めた章があり、それぞれに意味があります。

大牟田市の市章は、1956年につくられました。市章をよく見ると、6つの「大」の漢字がぐるりと並べられていて、中央に「田」の漢字があります。「大」が6つで「おおむ」、中央に「た」、これらを合わせて「おお

むた」になります。大牟田市の市章は、「おおむた」という言葉を表しているのです。また、大牟田でとられていた石炭はとても価値があったので、「黒いダイヤ」と呼ばれていました。そこで、全体的な形はダイヤモンドをイメージしています。

ありあけかいのり
有明海の海苔

九州では、有明海や八代海などで海苔がつくられています。特に、有明海ではたくさんの海苔が作られ、日本でも有名な海苔の産地となっています。

有明海は、大きな川がたくさん流れ込んでいて、潮の満ち引きの差が日本一大きいのが特徴です。これが、おいしい海苔をつくるためにぴったりなのです。

大きな川から流れてくる栄養たっぷりの水と有明

海の水が混ざることで、海苔は、たっぷりの栄養とちょうど良い塩気を取り入れながら生長することができます。また、潮の満ち引きの差が日本一大きいので、潮が満ちているときは海の栄養を取り入れ、潮が引いているときは太陽の光に当たって、おいしくなります。

このような自然環境を生かしながら、気温や潮の満ち引きの大きさに応じて毎日手入れされることで、おいしい海苔がたくさん作られています。

おおむたまんじゅう
大牟田の饅頭

大牟田では、饅頭や最中など、いろいろな和菓子が作られています。その中でも、草木饅頭やかすてら饅頭は、とても有名なお菓子です。

草木饅頭は、一口で食べられる小さな蒸し饅頭で、中には白あんが入っています。明治時代から作られるようになり、草木地域で作られていたことから、「草木饅頭」と呼ばれるようになりました。全国菓子

大博覧会で受賞したこともある、大牟田を代表する有名な和菓子です。

かすてら饅頭は、大牟田で初めて作られた焼き饅頭です。草木饅頭を参考にして、中には白あんが入っており、生地はカステラと同じ材料で作られています。とてもおいしくて評判になったため、全国で作られるようになってきました。福岡や東京のお土産となっている和菓子「ひよこ」も、かすてら饅頭を参考にしています。

おおむた このや 大牟田のお好み焼き



おおむたには、たくさんのお好み焼き屋があります。
じんこうひとりあたりのお好み焼き屋の数は、九州で一番
の多さです。お好み焼き屋の種類も様々で、大阪風
お好み焼き屋の店、お好み焼き屋の店、もんじゃ焼き
の店などがあり、それぞれ人気があります。

広い鉄板の上で、数人分を一枚の大きなお好み
焼きにして作ってくれる店もあります。新聞紙一面ほ

どの大きさがあるお好み焼きを、へらで一気にひっくり返す作業は、とても迫力があります。

また、大牟田市内には、お好み焼きを作る部活動をしている高校もあり、イベントなどで活躍しています。

かみうち 上内のみかん



みかんには様々な種類がありますが、日本で食べ
られているみかんの多くは、「温州」という種類です。
温州みかんには、さらに、実る時期によって「極早生
温州」「早生温州」「中生温州」「普通温州」「晩生温
州」の種類がありますが、よく食べられているのが
「早生温州」です。

明治時代、柳川市で温州みかんの研究が行われて

われていたとき、とても早く実る温州みかんの木が発見されました。これが、日本で初めての早生温州みかんで
す。宮川さんという方が発見されたので、「宮川早生温州みかん」と名付けられました。そして、宮川早生温州みか
んをたくさん育てる研究をするため、ぴったりの場所が選ばれました。それが、大牟田市の上内地区でした。上内
地区の山は「海に近くて潮風がよくあたる」「地面に水がたまりにくい（水はけがいい）」「暖かく、太陽があたる時
間が長い」という、みかんを育てるためにぴったりの条件だったのです。

それ以来、上内地区では、たくさんの宮川早生温州みかんが作られるようになりました。そして、少しずつ他の地
域にも広がっていった、「上内みかん」や「山川みかん」などと、地域の名前で呼ばれるようになっていきました。今
では、日本で食べられる早生温州みかんの多くが、上内地区で研究された宮川早生温州みかんです。

おおむた
大牟田

「牟田」という言葉には、「じめじめした土地」という意味があります。ですから、「大牟田」とは、「じめじめした土地が広がっているところ」ということになります。

有明海に干潟が広がっていることや、石炭をとる坑道にたくさんの地下水がわいていたことから分かるように、大牟田は昔、じめじめとした土地でした。

石炭がたくさんとられるようになる前、大牟田はまだ

だ、三池地域などをのぞいて、住む人の少ないところでした。初めて大牟田に来た團琢磨は、そのときの大牟田の様子を見て、「じめじめしていて、たくさんのヨシ（川などに生える背の高い植物）が生えていて、お化けが出そうなところだ」と言ったといわれています。靴が汚れるので、馬に乗って移動していた、ともいわれています。

それから、團琢磨の計画によって、石炭がたくさんとられるようになり、働く人が増え、大牟田はどんどん発展していきました。今では、「大牟田」の言葉の意味からは想像できないようなまちになっています。

み
三 いけ
池

大牟田に伝わる「ツガニの恩返し」の話によれば、ツガニにたおされた大蛇が三池山で暴れ、ぶつかったところが三つの池になった、といわれています。実際に、三池山には小さな三つの池があり、これが「三池」の地名の元ではないか、と考えられることもありますが、実際にはそうではないようです。

同じく、大牟田に伝わる「歴木伝説」によれば、

大昔、今の三池には高さ3000mの歴木の木が生えていた、といわれています。それを見た天皇はその大きさに驚き、「この木は神様の木だろうから、この土地を『御木の国』と呼んだほうがいい」と仰ったそうです。実際に、今から1300年前に書かれた本（日本書紀）の中には、「御木の国」という言葉が書かれています。

その後、「御木」は「三毛」と呼ばれるようになり、やがて、現在のように「三池」と呼ばれるようになりました。

はや 早

がね 鐘



江戸時代、三池藩は、田に使う水をためておくために、現在の大浦地域(ゴルフ場の辺り)の山の谷間に流れる川をせき止め、大きなため池をつくりました。このため池はとても大きく、大雨が降ると水があふれ、川の近くの家に被害が出る恐れがありました。そこで、大雨で水があふれそうになると、急いで鐘を鳴らし(早鐘)、人々に危険を知らせていました。そ

のため、ため池は「早鐘池」、ため池の近くの地域は「早鐘」と呼ばれるようになりました。この川の下流に作られたのが、早鐘眼鏡橋です。

しら 白

がね 金



白金地域の辺りは、現在はいくさんの建物が建てられています。干拓によってつくられた土地で、干拓される前は海岸でした。

この海岸に広がる砂浜の砂はとても白く、太陽の光できらきらと光っていたそうです。そこで、この地域は「白金」と呼ばれるようになりました。

ここで紹介した地名の他にも、大牟田には、昔の様子を想像することができる地名がたくさん残されています。例えば、「浦」という文字は、海岸の近くの土地に使われることが多い文字です。そのため、「一浦」や「宮浦」などの地域は、昔は海の近くだったのではないかと考えることができます。

また、「津」という文字は、船が海に出入りする土地に使われることが多い文字です。そのため、「船津」地域は、昔は船が出入りする土地だったのではないかと考えることができます。

さらに、「崎」という文字は、海に突き出たような土地に使われることが多い文字です。実際に、黒崎公園の辺りは、干拓される前は有明海に面していました。

このように、大牟田は有明海に面していて、干拓によって土地が広がっているため、海に関する地名が多く残されています。



せき たん はっ けん
石炭の発見



『石炭山由来』という、昔の文章の中に、このように書かれています。

1469年(室町時代)1月15日、三池の稻荷村(現在の三井化学工場の辺り)に住んでいた伝治左衛門夫婦は、枯れ枝を拾いに稲荷山に登りました。火を起こす薪にするためです。1月の寒い中、夫婦は山の頂上まで登り、枯れ葉を集めてたき火をしようとした

た。すると、地面にあった石が、枯れ葉と一緒にトトロと燃え出したのです。夫婦は、石が燃え出したのを見て、とても驚きました。そして、いいことがあるかもしれないと思い、神様に拝みました。家に帰った夫婦は、燃える石のことを村人に話しました。村人は、「石が燃えるなんて、聞いたことがない」と驚いて、夫婦と一緒に喜んだそうです。

燃える石(=石炭)のことが書かれた文章は、『石炭山由来』が日本で一番古いものです。そのため、日本で初めて石炭が発見されたのは、大牟田といわれています。

くぬ ぎ でん せつ
歴木の伝説



昔、大牟田ははじめじめとした土地で、歴木の木がたくさん生えていました。その中で、一本だけとびぬけて大きな木があり、高さが3000mもありました。しかし、この大きな歴木の木も、ついにたおれてしまいました。

そのころ、南九州(現在の宮崎県や鹿児島県)を訪れていた景行天皇は、その帰りに、現在の三

池地域を訪れました。そこでは、人々がたおれた歴木の木を橋のようにして渡っています。天皇は、近くの村人に「この木は何の木だ」と尋ねられました。そして、歴木の木ということが分かると、「この木は神様の木だろうから、この土地を『御木の国』と呼んだほうがいい」と仰いました。

この「御木」という地名がやがて「三毛」に変わり、今では「三池」になった、とされています。

ツガニの恩返し



昔、とても優しい「玉姫」という娘がいました。ある日、玉姫は、石の下敷きになっていたツガニを助け、手当てをしました。ツガニは元気になり、それから毎日、玉姫とツガニは仲良く遊びました。しかし、ある日、突然大きくなったツガニはいなくなってしまう、玉姫はそれから、寂しい思いをしながら暮らしました。

さて、玉姫の住む村には、恐ろしい決まりがありました。若い娘を、山奥に住む大蛇に捧げなければならぬ、という決まりです。決まりを守らないと、村に

悪いことが起こるのです。そして、とうとう、玉姫が選ばれてしまいました。玉姫は、覚悟を決め、籠に乗って山の頂上で待ちました。やがて、ドロドロと音がして大蛇がやってきました。玉姫は、もうこれでおしまいだ、と思いました。そのとき、遠くからガシャガシャと勇ましい音がして、大岩のように成長したツガニがやってきました。ツガニは玉姫を助けるため、大きなハサミを振り回して大蛇と闘いました。大蛇は目をやられ、体を3つに切られてしまいました。

その後、村人が山に行ってみると、ツガニは命を落としていました。そして、そのそばに3つの池がありました。暴れた大蛇の体で地面がくぼみ、わき水がわいたのです。しかし、玉姫は見つかりませんでした。

玉姫は龍神様になって、村人を見守っているといわれています。今でも、三池山にある3つの池は、水がかれることがありません。そして、村人は今でも、ツガニを食べることはないといわれています。

不思議な鎌



昔、三池に鍛冶屋があり、そこで作られる鎌や包丁は、とても人気がありました。そして、鍛冶屋の中でも一番信頼されている、典太という職人がいました。

ある日、典太は村に住む茂作という百姓と一緒に、鎌を作り始めました。失敗を繰り返しながら、典太と茂作は、素晴らしい鎌が作れるようになりました。軽くてよく切れ、手に持つと自然に体が動いてしまうような鎌です。茂作は「この鎌には、典太の魂がこもっている。」と思い、絶対に手放さないと誓いました。

ある日、草刈りをしていた茂作のところに大蛇があらわれ、茂作を飲み込もうとしました。そのとき、典太と作った鎌が光り、うなりを上げながら大蛇に向かっていきました。驚いた大蛇は、山奥に逃げていきました。

その時、たまたま、その様子を見ていたお殿様が、「その鎌が欲しい。代わりに、望む物は何でもやろう。」と言いました。しかし、鎌を渡したくない茂作は、お殿様に「山が隠れるほどの米をください。」と、出来そうにもないことを言いました。しかし、お殿様は、その願いを叶え、山を米俵でいっぱいにしたのです。その山は、「米の山」と呼ばれるようになりました。茂作は、「米は、家族が食べる量だけで十分です。その代わりに、お殿様の刀を典太に作らせてください。」と頼みました。その後、刀作りに励んだ典太は数々の名刀を作り、日本一の刀作り職人になりました。

大牟田の宝物を調べよう

施設	住所・休館日	電話番号
【石炭産業科学館】 ▶ 石炭について 調べたいとき	▶ 大牟田市岬町6番地23 ▶ 9:30～17:00 ▶ 【休館日】毎週月曜、12/29～1/3 ※ 祝日と重なる場合は、次の平日	53-2377
【カルタックスおおむた】 ○ 三池カルタ・歴史資料館 ▶ カルタや大牟田の 歴史を調べたいとき ○ 市立図書館 ▶ 本を読みたい、調べたい とき	▶ 大牟田市宝坂町2-2-3 【三池カルタ・歴史資料館】 ▶ 10:00～17:00 【市立図書館】 ▶ 火～金 9:30～20:00 ▶ 土日祝 9:30～18:00 ▶ 【休館日】毎週月曜、最終木曜日、12/29～1/3 ※ 祝日と重なる場合は、翌日	【三池カルタ・歴史資料館】 53-8780 【市立図書館】 55-4504
【大牟田観光プラザ】 ○ 大牟田の観光について	▶ 大牟田市不知火町1丁目144-4 大牟田駅東口 ▶ 9:30～18:00 ▶ 【休館日】毎週月曜、12/31～1/1 ※ 祝日と重なる場合は、翌日	57-0101

2030 年の大牟田をどんなまちにしたいですか

私たちが生まれ育った大牟田には、素晴らしい自然やすぐれた文化・伝統などの「たくさんの宝もの」がありますね。みなさんは、この大牟田検定ガイドブックを通して、たくさん発見し、大切にしたい宝ものを見つけることができたと思います。また、大牟田の宝ものを通して、大牟田のことがもっと好きになったのではないのでしょうか。

大牟田市では、SDGs（エスディージーズ）「持続可能な開発目標」の達成をめざして、ESD（持続可能な開発のための教育）をすすめています。「SDGs」とは、2015年に国連総会で決められた、2030年までに目指すべき17の目標です。すべての人が平等な機会を与えられ、地球環境を壊さずに、より良い生活を送ることができる世界を目指して、世界中で努力することが約束されたのです。「持続可能」とは、自分のまわりのことだけでなく、未来のみんなも、今のように幸せに暮らせる世界にしていけることです。みなさんが見つけた大牟田の宝ものも、何もしなかったら、なくなってしまうたり、忘れられたりするかもしれません。大牟田の宝ものを未来の子どもたちに残すためには、一人一人が、自分には何ができるか考え、行動していくことが大切です。そのことが、この大牟田をよりよいまちにし、世界で目指すSDGsの達成につながります。

みなさん、2030年の大牟田、日本、そして世界を想像してみてください。そして、自分が住んでみたい2030年にするためには何ができるか考え、行動しましょう。2030年の大牟田、日本、そして世界を担うみなさんの活躍を楽しみにしています。

子ども大牟田検定 運営委員会・編集協力者

運営委員会 大牟田市小学校社会科教育研究委員会
大牟田市中学校社会科教育研究委員会
大牟田市小学校理科教育研究委員会
大牟田市中学校理科教育研究委員会
大牟田市小学校生活科・総合的な学習の時間教育研究委員会
大牟田市中学校総合的な学習の時間教育研究委員会

編集協力 大牟田市産業経済部観光おもてなし課
大牟田市産業経済部農林水産課
大牟田市企画総務部世界遺産・文化財室

資料提供 古池博文

事務局 大牟田市教育委員会学校教育課指導室



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

